

## ●刊行にあたって

21世紀まであと数年を残すのみとなり、社会の状況も、まさに「世纪末」といった大変化を予感させる出来事がたて続けに起こっている昨今です。我が国の教育をめぐる状況に目を転じますと、社会全体に、世界のグローバル化、情報化の波がおし寄せる中、第15期中央教育審議会の動きなど、これまでとは全く違った条件下での教育改革の試みが進められています。

こうした状況のもとで、この度、ベネッセ教育研究所では、法政大教授の稻増龍夫先生らのご協力のもと、「2010年 教育環境の将来予測のための調査」を実施し、その結果をまとめ、今回公表することに致しました。

これは、主に教育に関わる有識者の方々をランダムに選び、その方々に、西暦2010年を見据えて、我国における教育をめぐる様々な状況に関して大胆に予測してもらい、それを分析し、まとめたものです。

もちろん、本報告書は、あらためて申すまでもなく、あくまで「予測」でありますから、何らかの仮説を持って未来をデザインする時の資料として活用いただければ幸いです。

尚、本報告書の中でも述べておりますように、1987年においても同様の「教育に関する未来予測調査」を行っており、それとの対比も本調査の見どころと思います。

末筆になりましたが、今回の調査にご協力を頂きました方々には、この場をお借りしまして、厚くお礼申しあげます。

ベネッセ教育研究所  
代表 島内 行夫

## 目次

調査概要・推進体制	2
要約	3
調査集計結果	5
Q1 4年制大学進学率	6
Q2 短大進学率	8
Q3 大学・短大志願率	10
Q4 専門学校専門課程進学率	12
Q5 大学院進学率	14
Q6 男子の大学卒業者就職率	16
Q7 女子の大学卒業者就職率	18
Q8 家計支出に占める教育費の割合	20
Q9 高校生の通塾率	22
Q10 高校生の通信教育利用率	24
Q11 労働時間	26
Q12 学習時間	28
Q13 パソコンの世帯普及率	30
Q14 学歴信仰	32
Q15 新しい学力観	34
Q16 企業の能力主義	36
Q17 センター試験	38
Q18 大学入試の多様化	40
Q19 偏差値信仰	42
Q20 単位制や総合制高校	44
Q21 男女別学形態	46
Q22 高校や大学へのブランド志向	48
Q23 教育行政の規制緩和	50
Q24 性的役割規範	52
Q25 生涯学習社会	54
Q26 大学の個性化	56
Q27 教育場面のマルチメディア化	58
Q28 価値観	60
Q29 高校生・大学生の海外留学	62
Q30 21世紀の高等教育を考える上で 落としてはならない環境要因（自由記述）	64
考察	72
調査見本（第1回目調査見本）	77
（第2回目調査見本）	109